

第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会

※ 18時30分開会

※ 20時00分開会を目処

学校教育課長	定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 はじめに、開会を教育部長よりお願いします。
教育部長	ただいまから「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
学校教育課長	次に、教育長より挨拶をお願いします。
教育長	地域の力とは何なのか、 学校統合の話もあり、地域社会との結びつき、地域社会の教育力、学校の在り方の位置づけ等、皆様自身の体験や見識を踏まえて意見をいただきたい。
学校教育課長	次に、委員長より挨拶をお願いします。
委員長	これからの未来についての計画を楽しんで話し合っていきたい。
学校教育課長	次に、協議事項に入らせていただきます。 ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。
委員長	それでは、議事を進めていきたいと思えます。 本日は、資料にあるとおり2つの事項につきまして協議を進めていきたいと思えます。 はじめに、「(1) コミュニケーション能力の育成についてのまとめ」について 事務局より説明をお願いします。
教育監	(1) コミュニケーション能力の育成についてのまとめについて説明 キーワードは裾野らしさ 手立て ・多様な関わりを持ち多様な価値観を知る。 ・ICTを活用してコミュニケーションが苦手な子に手を差し伸べる。

<p>委員長</p>	<p>・小学校段階からいろいろな体験を行う。</p> <p>コミュニケーション能力についての書き方について、検討してほしい。 育てたい力について、必要なものはコミュニケーション能力という組み立ての方がよい。</p>
<p>委員</p>	<p>ICT活用がポンと出てきている意図は？これだけ具体的な感じがしたので、コミュニケーション能力を育てていくための手だてとして挙げられているが、ICTを一つの柱とすることについて、ここで共有できれば。</p>
<p>委員長</p>	<p>自分の素で伝えることが苦手な子でも、道具を使って、素ではできないコミュニケーションをとれる、コミュニケーションのツールとしてICTを活用できるといい、期待したい。</p>
<p>委員</p>	<p>コミュニケーションという言葉の定義、対面で話すことという考え方だけではない。ICTを使うことで、コミュニケーションの定義が広がるということ。学区内とか生活圏内にとらわれないことが、ICTを使うことで出てくるのかなど。概念自体が変わっていきこうということとICTが接続されるといいと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>コミュニケーション能力 直接対話をしなきゃいけないにとらわれがち。ツールであるICTを使ってできるコミュニケーションも、他の人が助けてくれてコミュニケーションをとれるのも能力。 先日、野口さんの講演にあったように、障害の捉えが「個人モデル」「社会モデル」の2つがある。 「個人モデル」その個人の能力をどのように伸ばすかだけでは、解決できない。個人の能力を伸ばすのも限界がある。 「社会モデル」個人と環境の相互作用によって障害になったり能力を発揮できたりする。環境調整すれば能力を発揮できるというように捉え直す。 チームワークで社会の問題を解決していく。その中で、個々の能力を発揮していくという教育プログラムはどうか。</p>
<p>委員長 教育監</p>	<p>次に、「(2) 社会と関わる楽しさを感じ、自ら行動する子供たちをどう育てるか」について 事務局より説明をお願いします。 (2) 社会と関わる楽しさを感じ、自ら行動する子供たちをどう育てるか 1. 資料1の説明 ・プロジェクトチームで話し合われた内容。 「裾野市でどういう子供を育てたいか」について</p>

	<p>2. 資料2の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加状況 小学校6割、中学校4割 市民3.5割 小中は、全国よりも若干高い ・地域のために何かしたいかという設問は、前回より増えており、平均よりも高い結果になった。 <p>話し合いの視点として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちがどんな時に社会と関わる楽しさを感じるか ・大人はそのためになんか用意をすればいいか ・子供たちに何ができるようになってほしいか <p>以上の点を踏まえた上で、各委員会らの意見を伺いたいと思います。</p> <p>意見交換</p> <p>資料の数字について、市の方ではどのようにとらえているか。</p> <p>分析はできていない。</p> <p>地域活動とは？</p> <p>河川清掃や防災活動等</p> <p>プール清掃について、今年は地域に参加者を募り、6年生27人、地域保護者13人、教員も。みんな楽しくやってくれて、感想文を見るとこれからもやってみたくて書かれていた。今までやったことがなくて、やってみたら楽しかったという様子が見られた。</p> <p>今まで命の用水という深良用水の劇を中学校でやっていたが、これからは地域でやってもらえないかという話がきた。地域に働きかけたところ、会合に多くの人が参加した。</p> <p>学校からの要請がいろいろある。できる人に、学校教育に対して、できることを選択してもらおう形でやってもらう。</p> <p>今までやっていた人にお手伝いをお願いしたところ、やろうということになった。地域全体に回覧を出して、やる人を集めてやろうと今進めている。地域の方は、こちらでアイデアを出せば、やってくれる人はたくさんいる。</p>
委員長	
教育監	
委員	
教育監	
委員	

委員	<p>8月に深良用水を止める。河川の草刈りをする。</p> <p>隧道見学を、今までPTAにバス代を出してもらっていたが、これからは地域でやろうと考えている。</p> <p>ここ数年やってなかったなので、中学生にも募集をかけたら、結構な人数が集まった。</p> <p>地域で付き添いの支援をしようと思っている。</p> <p>小学校や中学校だけではなく、幼稚園や保育園にも行くと、喜ばれる。例えば、地域で竹馬を作って一緒に遊んでということをやっていく。小さい子は楽しいので、みんなで話し合っ、地域で広げてやろうとしている。地域の子供たちとコミュニケーションを図ろうと思っている。</p> <p>いきなり大きな学校へ行くと戸惑うだろうが、大人との触れ合いをすることで、緩和されるのではないかと考えている。</p> <p>以前隧道見学をするときに、教職員の希望を募ってもらったこともあった。参加したが、ものすごく感動したことを鮮明に覚えている。地域の方に手を携えてもらって歩き方を教えてもらって、地域の人を感じた。</p>
委員	<p>市外に出て、大人になってまた戻ってきたいというように考えてほしいと願って、今計画している。</p>
委員長	<p>地域活動への参加。今あるものの中に入るだけではなく、新しいものを作っていくことによって、子供を呼びこんでいく。そして、大人も巻き込んでいく。</p>
委員	<p>子供は出たいと思っ、ても、大人がだめだということがある。でも、大人が参加すると、わりあい出てくれる。</p> <p>今度、地区のコミュニティ祭りがある。4年ぶりに行う。中学生ボランティア15人も参加してくれる。</p> <p>ポスターも描いてくれて、つくるところから協力してみんなでやりましょうと考えてやっ、ている。やるならみんなで楽しくやりましょうと。</p> <p>役割を分けて、みんなも動いてくれる。責任をそれぞれにもたせる。大きな社会に出て生かせる力にもなると思う</p>
委員長	<p>子供たちは参加する側で、大人たちは何ができるかという考え方だが、今の話だと分けて考える必要はないのかもしれないということがいえる。また（まとめの紙を）直していただければ。</p>
委員	<p>資料2について質問で、問いの上昇の度合いが大きい、これはコロナ禍の影響が大きいのか。</p>

委員長	裾野以外の地域もどうだったのか調べておくといいかもしれない。
委員	裾野で勤務していて、どの地区も子供たちを大切にするし、教育にすごく関わってくださる。中三の調査を見て驚いた。イメージでいうと、この数値は県や全国よりも高いと思っていたが、ほぼ同じくらいだった。状況としてはもっと良いと思うのだが、この数値を見てちょっとショックだった。子供も比較的参加できていると思うのだが。
委員長	伸ばすためのアイデアはあるか？
委員	体感値とアンケート結果とギャップがある？ 地域活動とは何なのか。社会をよくするためになると、そんな大それたことはと考えているかもしれない。実態的には、生徒たちの思いと数字とのギャップがあるのではないかと思う。
委員	聞き方によって、変わるかも。小学生に「いいことしたいか？」って聞けば「はい」と言うと思う。 中学生になると、具体的な活動をイメージし始めるので、体感的な感覚が大事なのではないかと感じた。 外に出ている人間だが、須山に帰るとみんなで何かしようという思いは圧倒的に高いと思う。この地域を何とかしなきゃという思いが、東京よりも残っている。 この状態のまま、どうしていくかと考えていくといいと思う。 裾野のおやじの会もものすごい人が出ている。
委員	自分の地域の活動は、初期においてはみんなのためにとやってきたが、ものめずらしさが減り、どうやって維持していくか難しくなっている。
委員	高校で、トークダンスという1年生が主体のイベントがある。地域の方や遠くの方、地域の輪を広げるというイベント。
委員	地域との結節点になっていて、好奇心を広げるいい機会になっていると外から見て思う。それぞれの世代がいるというのはよい。
委員	(大学のときの活動を振り返って) 発展途上の活動が楽しいと思う。一緒によくしていこうよという活動が楽しい。Zoomで同じ授業を同時にやろうという企画をしたときに、ハプニングも続くが、自分の意見が採用されて、形になっていくという過程が楽しい。もっとよくしていこうという活動がい

委員	<p>い。</p> <p>自分の所属している会社も、新しいことを立ち上げようとし、古株がつぶしていっているとモチベーションが上がらなくなってしまうことがある。コロナで断絶してしまっていることがあるが、もう一回新規開拓するようなプロセスを楽しんでいるところがある。</p> <p>今日の視点にあるが、用意しすぎないことが答えなのかと思った。参加する人たちが関わって、アイデアを出して改善していく余地を残しておく。</p>
委員	<p>イベントの中で、子供たちに次はどんなことをやりたい？と考えさせることが大事。企画した人が率先して動かないと誰もついてこない。劇をやり始めたときは資金がなかったが、企業を回って集めた。</p> <p>深良用水祭りも、コロナのせいもあってPTAが出なくなってしまったが、地域で今募集している。</p> <p>いろいろなことにかかわっていると、アイデアが出てくる。大人も子供も考えて、出てきたアイデアを否定しない。話をしている途中で話の腰を折らないようにしている。</p>
委員	<p>PTAの中の活動でボランティアとかあるが、伝え方の問題で、義務としてというやってくれないことがある。全国大会の事例であったのが、プール清掃などの作業にすると嫌がるが、親子体験みたいにすると人気が出てたくさんの人が参加したりする。</p>
委員長	<p>環境整備というと、工夫も何もない状態。楽しくできることがいい。</p>
委員	<p>ロードマーケットでは、基本的に人は足りているが、今年がちょうどというところ。楽しくないと人は来ない。今後人は足りなくなる。2030年代で10%人がたらなくなる。2040年代で30%いなくなる。</p> <p>仕事は余る。マストというボランティアをやる人も人が足りなくなる。楽しい活動にしか人は集まらない。</p> <p>最低条件を整えるために、楽しくないとそもそも人は来ない。地域のイベントも仕事も同じ。活動主体として、一緒に作り上げていく。同じパートナーとして活動することがカギ。</p>
委員	<p>地域の活動をやってきたが、やる活動に生産性がないと参加しなくなる。中学生が地域をどうしたいかという視点を持たせないと参加しなくなる。</p>
委員	<p>今まで子供が参加する理由は、例えばマンパワーとしてとか、成果を発表し</p>

委員	<p>てとかというイメージがあった。イベントに対して、子供が作り手に回っていくということが、今こちらがやらなければならない準備なのかなと。大変だが変わっていかねばいけないのかなと感じた。</p> <p>コミュニティ祭りで、中3の子たちがボランティアで参加して、楽しそうにやっていた。子供たちにとっても、大人にとっても楽しい活動にすることが、地域が繋がっていくことになる。やらなければいけない活動から、一緒に楽しむ活動への変換が大切。</p>
委員	<p>中学生でも、防災訓練は慣れ親しんでいる。やったことがあると、楽しさは下がっていく。販売とか特別感があることだと、やってみたいと思う。ふだんやらないことが回ってくると、やってみようと思う。</p>
委員長	<p>楽しいものを作るって難しいかもしれないが、何か参加してみて面白かったものがあるか？</p>
委員	<p>小学6年生の時に、葛山にお寺が地域にあるが、チャンバラ大会があった。あまり来ないと思っていたが、楽しそうということで結構な人が来た。</p>
委員長	<p>三年たったら見直したり、やめたりというのもいいのかなと思った。</p>
委員	<p>物珍しさ、維持発展、足りない部分を残しておくことを考えて、企画することの難しさがある。</p>
委員長	<p>計画してそれをやれと言われたら、すごく大変。</p>
委員	<p>同じことでもなんか変わったというような、関わり方がどんどん深まっていたような設計があってもよいのかなと思った。</p>
委員	<p>イベントを単一のものにしない。オープンダイヤルの手法があるといいかも。声の大きい人以外の人を声を広げるようにするための手法。コミュニティマネジメントの手法に取り入れるといい。声を挙げられない人たちの声を捨てていくと、声を挙げられない人の好奇心が発動するイメージ。</p> <p>〈委員が画像を投影〉</p>
委員	<p>多様な人と出会い、価値観を広げようという機会が減っているの、それを解消しようという取り組みをやっている。</p> <p>中2をターゲット</p>

	<p>ソーシャルスキルを上げていく取り組み。 中学生同士や社会人と会話するようなプログラム。やっている理由は、情報が錯綜する中で、自分の中でフィルターがかかってくる。それを取り除き、いろいろな大人と対話をする。</p> <p>キャラ変したいと考えていても同じ仲間の中だとできないから。 自治体から子供たちに呼びかけてもらって、放課後にひたすら会話をしている。一見すると遊んでいるように見えるが、ひたすら会話している。起業家やサラリーマン、海外の人もいて、でもやるのは対話だけ。たくさんの企業も参加していて、企業側は大人（企業サラリーマン）のためのコミュニケーションのトレーニングをしている。先生たちが、子供たちに伝える技術は非常に高い。企業サラリーマンにはその力が足りていない。</p> <p>属性と価値観のタグ化ということをやろうとしている。 全然違った価値観同士でぶつかるのと何が起こるか、ということに対話的に学び取ってもらう活動。</p> <p>全然違う価値観の人と出会って対話する。その中で、やっていることはシンプルに対話することだが、自分の考えていることを伝えるだけでなく、傾聴する手法を学び取ってもらっている。</p> <p>このプログラムでやっていることは、実は学校の中でもものすごくやっている。それを強化する意味で、ITを活用して人口減少化でも面白いことができるかもしれない。</p>
委員	<p>どうやってこのプログラムに参加するのか。</p>
委員	<p>希望があった場合は学校単位で参加している。 大人のメンバーは、経団連の横のつながりで声をかけたり、友達が多い人のつながりで集めたりしている。いろいろな人たちがいるということに目を向けてもらうためだけにやってもらっている。</p>
委員	<p>年何回やっている？</p>
委員	<p>毎月定期的に行っている。 直接かかわらなくても先生方のつながりでやろうとしている。現在は費用なしでやっている。 企業の協賛を集めているので、無償で。研修費用をいただくこともありえるが、今のところは無償を考えている。</p>
委員	<p>生き方指導として、このようなプログラムのようなことをしたいと思う。 単発であれば、面白い人に行ってもらってやるということも考えている。狛江市小6の子とキャリア教育プログラムで行う予定もある。</p>

委員長	<p>それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆様のご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。 それでは、次に 「その他」 となります。何かございますか。</p>
教育監	<p>1点、前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開についてご意見を伺いたと思います。 事前に委員の皆さまには、前回の議事録（要点筆記）を送らせていただきました。ご一読いただき、何か修正する点や変更点はございませんか。 無ければ、前回の委員会議事録を確認いただいたということで、こちらで保管をさせていただきます。 また、当委員会は公開で開催しておりますので、当議事録を市ホームページに公開することを予定しております。若干、発言者の表記に留意した上で、公開したいと考えておりますが、宜しいでしょうか。</p> <p>それでは、準備が整い次第、当議事録を市ホームページにて公開させていただきます。</p> <p>他に、何かございますか。 無ければ、閉会に移らせていただきます。 閉会のあいさつを教育部長、お願いします。</p>
学校教育課長	<p>次回の日程につきましては、1月12日（金）となりますので、よろしくお願ひします。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。 最後に、皆様方から、何かございますか。</p>
教育部長	<p>無いようですので、これで「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。 お疲れ様でした。</p>